

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和8年3月10日		～	令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和8年3月10日		～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・外出や宿泊のイベントを一年に数回開催している ・スポーツ教室やドラムサークルを定期的に開催している	・車いすの児童など、障害の程度に違いがあっても参加できる内容のイベントや先行を考え、参加児童全員が楽しめる内容を考えている	・また次回も行きたいと思ってもらえるように、児童や保護者から聞き取りを行いその意見を活かせるようにしていく。 ・児童たちがどんなことを望んでいるか、直接希望調査を行い、施設側だけで進めないようにする
2	・通所している児童が「行くのが楽しい」と思ってもらえていること	・児童が気に入っている遊具や何が欲しいかを聞き取り、その中で安全に遊べ、他者とのコミュニケーションを取れるもの、体を動かせるものを選び取り入れるようにしている。	・現在はフリープログラムで行っているが、一定時間を決めてプログラムを組んでいく活動も考えていく。 ・段階的なグループ分け等を行い、それぞれのレベルに合った活動が無理なくできる様にしていく
3	・保護者との細やかな情報の共有を毎回送迎時に行っていること。小さなことでも共有していく。 ・当日中に伝えた方がよいことは電話などでその日のうちに保護者へ報連相を行っている。	・連絡ノートでも伝えていくが、文章では伝わらない部分などを直接保護者に伝えるようにしている。 ・送迎後に電話連絡などしながら、その日のうちに共有できるようにしている。 ・可能な保護者とは面談も実施している。	・児童が来る前の面談ではなく、活動している様子を静かに見学できるような環境も整えていきたい(可能ならば児童にばれずに)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・通所自体は楽しく来て頂いているが、活動の内容の全体像が保護者に伝わっていないことも多い ・放デイ以外の児童との関わりや、地域との関わりなどが薄い ・保護者サロンなど保護者も参加できる交流会が無い	・個人連絡帳の記入の仕方、送迎時などの保護者と話す機会の職員による偏り、ツールの少なさ。 ・最新情報発信ツールを使いこなせる職員が少ない為、地域や他の所へのアピールがあまりできない	・保護者から声が多かった活動写真については、施設SNSを開設し、すぐに活動の様子を保護者に公開できるようにした。 ・スポーツ教室やドラムサークルなどにきょうだい児の友達等も呼べるようにするなどし、放デイ以外の関わりを持てるようにしていく ・連絡帳の書き方について、どう書いたら伝わるか、保護者は何を求めているか、等を社内研修などで全職員が習得できる環境を作っていく。 ・希望する保護者はイベントに参加できるような内容のものを年に一回でも実施できるようにし、保護者同士の交流を持てる機会も考えていくようにする。
2	・職員配置について、職員によっては業務をこなせる幅やスキルも異なる為、配置人数に対して忙しく感じる事が多い。 ・各職員によってスキルもちがうので、各々の向き不向きを見分け、適材適所となるように見極めていく必要がある	・常勤、非常勤や年齢によって、児童との関わり方や業務の内容も変わるが、業務量の偏りができてきている。バランスが取れるように業務内容を振り分けていかないといけない。 ・各々のパワーバランスも大事だが全員が同じ業務をこなせるわけではないので、全体の業務バランスもみながら個々の調整をしていく必要がある	・年齢や身体状況によってこなせる業務の量や種類は違う為、全体的にバランスが取れるように業務を振り分けていく。 ・リーダーポジションを作ることでまとまりができるようにしていく
3	・各種マニュアルなどの説明なども、認識が行き渡っていない。 ・職員によって知識や対応力などにムラがある。		・マニュアルなどは初回時に限らず、すぐ確認できる場所に置いておく。そのことを発信していく。 ・一人ひとりの対応は限界があるので、軽い社内研修などを回数を多くして開催し、職員間のムラを極力少なくしていく。 ・職員同士でフォローができる体制を作っていく。